

日本建築学会関東支部 住宅問題専門研究委員会 連続シンポジウム
これからの東京の住宅地を考える 第3回

空き家利活用による居住支援の取り組み

ー 豊島区居住支援協議会の活動経過を中心に ー

平成20年住宅・土地統計調査によれば、全国の空き家は約760万戸で、調査の度に増えている。人口減少社会においてはさらに空き家が増えていくことが予測される。自治体の住宅政策においては、空き家条例の制定や空き家バンクの運営等、様々な取り組みが見られ、危険な老朽空き家対策とともに、空き家を地域を資源と捉えて有効活用していくことも課題になっている。

住宅が余ってくる一方、様々な要因により適切な住宅を確保できない人もいる。高齢者世帯、障がい者世帯、ひとり親世帯、外国人世帯などの住まい探しには、依然として円滑に進まない状況がみられる。

空き家の利活用に様々な居住支援の取り組みを組み合わせれば、新たな住宅セーフティネットを構築することが出来る可能性がある。

今回は、居住支援の先進事例として豊島区居住支援協議会を取り上げ、NPOとの連携により進められている居住支援モデル事業についての報告を受け、安心して暮らし続けられる、持続可能な住宅地の条件について考えたい。

主催： 日本建築学会関東支部 住宅問題専門研究委員会

日時： 2013年11月22日(金) 18:30～20:30

会場： 建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）

JR 田町駅 徒歩5分 <http://www.ajj.or.jp/jpn/guide/map.htm>

講師：小口優子

（豊島区居住支援協議会事務局、首都大学東京都市環境科学研究科客員研究員）

モデレーター：佐々木誠（日本工業大学）、コメンター：高山 登（㈱ポラス暮らし科学研究所）

プログラム：

1. 開会挨拶とシンポジウムの主旨説明
2. 講演
3. 質疑と意見交換

定員： 30名 参加費：会員500円 会員外1,000円

申込はこちらから⇒⇒

https://www.ajj.or.jp/index/?se=eventlist&ac=action&button_kind=3&button_id=647

問合先：日本建築学会事務局（03-3456-2050）